

## 【事例 H28-07】 宮城県角田市

## いじめ防止・自殺予防対策推進講演会

【概要】角田市内の小・中学校教員、民生委員・児童委員、市役所職員等を対象に、児童・生徒の自己肯定感を高め自分を大切にできる子どもを育てていくこと、また児童・生徒のSOSに気づき、小中学校と民生委員児童委員、市役所職員等地域が連携し支援できる体制づくりを推進していく足がかりを築くため、外部講師を招き講演会を開催した。

【実施主体】 角田市市民福祉部健康推進課

【大綱の分類】 4) 心の健康づくりを進める

【事業予算】 74 千円（H27 年度）

【利 点】

- ▼教職員をはじめ関係者が、子どもの自己肯定感を高める関わりができるようになる。
- ▼子どもたちの自己肯定感を高めていくことが、長期的に若年層の自死予防に資すると期待される。
- ▼学校、地域、関係機関が連携することで、包括的な見守りや体制作りを推進することができる。

【実施に至るまで】

角田市自殺予防対策推進計画の策定（H24.3月）

- ①角田市の自殺死亡率（人口 10 万人あたりの自殺死亡者数）が、平成 19 年には 45.7、平成 21 年には 34.1 と、いずれも県内ワースト 3 位となっており、その対策は喫緊の課題であった。そこで市民とともに自死予防対策を総合的かつ効果的に推進する指針として、平成 24 年 3 月に「角田市自殺予防対策推進計画」（以後「計画」とする）を策定した。
- ②計画策定当時、角田市では 40 歳代の自殺者が最も多く、また 20 歳代の 4 割、30～50 歳代ではいずれも 3 割以上が自ら死のうと考えた経験があり、自殺者の多い年齢層と重複していた。
- ③「引きこもり」や「死にたい」等の相談の中には、幼少期の親子関係の中で感じた「愛されていない」「自信が持てない」等の気持ちを、成人期になっても引きずり、自己肯定感が持てない、または低いままである方が多く見受けられた。

学童・思春期における取組

- ①自己肯定感を高められるよう、誰かに愛されて育ってきたことを知り、ありのままの自分を受け入れられるようになる。児童・生徒が「こんな考え方もあるんだ」「ほっとする」というようなプラス思考の考え方に気軽に出会える。

②傾聴、受容、共感を体験できることで、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づき、声をかけることができるよう、孤立・孤独を防ぐための人間関係づくりをしていく。

③関係機関と連携し、子ども達と関わる大人も自己肯定感を高め、環境づくりに尽力できるよう共に学んでいく必要がある。

#### 具体的な内容

##### ▼教育委員会との共催で教職員の研修会として開催

- ・研修会は角田市教育委員会と共催で実施（いじめ防止も目的とした事業）
- ・1年前より教職員の研修会として日程調整し、小中学校へは教育委員会より周知

##### ▼講演会は90分間

・日時：平成27年11月17日（火）13：50～15：30（受付13：30～）

- ・テーマ『子どもの自己肯定感を高めるかかわり』  
～自分を大切にし、人とつながって生きる子どもを育てる～

- ・外部講師を依頼

子どもの社会的自立能力を高める学級づくり、授業づくりについて、教師のリーダーシップ、子ども同士の間関係などの観点から研究している元小学校教員の大学教授に講師を依頼。

##### ▼自死予防対策の推進について説明

- ・教職員や民生委員児童委員、市役所職員等講演会参加者に「計画」策定の経緯と自殺予防対策の推進について説明。
- ・市内小中学生から募集し作成した「私を元気にしてくれた言葉」クリアファイルを配布。

#### **【成果および課題】**

▼学童・思春期層の支援者に対し人材養成や支援体制づくりを目的に開催した。学校、地域、関係機関等から約200人が参加。講師は一方通行的な講義ではなく、テーマの「かかわり」と関連させて、来場者に対し参加者同士のフリートークを交えての手法で話を進めていった。参加者も受身的ではなく、主体的に聞くことができた。

19年間小学校の現場で勤務した講師の経験と実践に基づく話や一つ一つの言葉に、参加者は大きくうなずきながら熱心に耳を傾けていた。参加者は、講師の話を今後の指針として受け止め、子どもたちの明日の幸せのため、よりよい環境づくりに力を尽くしてくれることを期待したい。

今回の講演会は、それぞれの立場で、日頃の支援や業務の中で立ち止まって振り返るよい機会となった。

▼家庭、学校、地域が連携を図りながら、今後も子どもたちの自己肯定感を高める方法を検討していく必要がある。例えば、母子保健の分野では子育てに自信がない母親に寄り添い、ストレスを抱え込み過ぎず元気であることが子どもの心の健康につながる。また学校教育の分野では、いじめや人の命について道徳・人権教育を通して子ども同士が学び合うこと、そのほか様々な場面で責任感、達成感をもたせることで、自己実現や志（こころざし）につなげていくこと。また生活が困窮している世帯では、なかなか親も子も自己肯定感を高くもてないことがある。それゆえ多くの人がかかわることによって、子どもたちの自己肯定感を高めるきっかけをつくることにつながるものとする。今後は、家庭や学校、地域が三位一体となって連携を図っていくことが大切である。

#### 【補 足】

▼平成 26 年 11 月に『角田市いじめ防止基本方針』を策定。若年層の学校教育における自死対策については第 4 章重大事態への対処に準ずるものとする。

【事業種別】	研修実施（教職員、関係機関等）
【準備期間・人数】	1 年（日程調整、講師との連絡調整含） 健康推進課 2 名、教育委員会 2 名
【予防段階】	1 次予防
【自治体規模】	人口 30,318 人（H27 年度末現在） 財政規模 143 億 7,000 万円
【自治体負担率】	無し（地域自殺対策強化交付金を使用しているため）
【事業対象】	市内小中学校教職員、保育幼稚園施設職員、民生委員児童委員、市役所職員等
【支援対象】	小中学生
【実施主体・問合せ先】	角田市市民福祉部健康推進課 TEL：0224（62）1192

※データは全て H27 年度時点のもの

#### 【参考資料・文献】

(ア) 角田市ホームページ <http://www.city.kakuda.lg.jp/>